

課コード	005117	作成日	平成21年8月28日
所属名	こども安全課	作成者	安井 清美

事業名		戦略性	
地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業		市	
事業概要			
目的	(対象、意図、求められる結果)	開始年度	終了予定年度
学校や通学路における事件・事故が大きな問題になっている近年の状況を踏まえ、家庭や地域の関係機関・団体(自治会、健全育成会、警察など)と連携しながら、学校の安全管理に関する取組を充実させ、児童が安心して教育を受けられるようにする。		19年	年
活動内容【イン・プット】			
<p>(1) スクールガードリーダーによる市内小学校区巡回指導 警察官〇B等をスクールガードリーダーとして委嘱する。 スクールガードリーダーは担当する小学校(6~7校)を定期的に訪問する。 校区内を巡回し、教員や児童へ危険箇所等を知らせ、緊急時の対応方法を指導する。 学校に対し、警備のポイントや改善などの指導をする。</p> <p>(2) 学校安全ボランティアによる校区内の見守り活動 学校や通学路で子どもたちを見守る学校安全ボランティアを養成する。 地域の方々を対象に、講習会を実施する。 専門的な知識を持つスクールガードリーダーなどを講師とする。</p> <p>(3) モデル地域を指定し、実践的な取組を実施 1中学校区(複数の小学校のある地域)をモデル地域として指定する。 学校安全ボランティア等を活用し、地域の実情にあわせた防犯に関する実践的な取組を行い、地域社会全体で子どもの安全を見守る体制を整備する。</p>			
事業の性格分類		実施根拠(法令、条例等)	
<input type="checkbox"/> 義務的事业 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的事业		地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業委託要項	
事業運営方法		新市建設計画事業	
<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等		ワークショップ提案事業	
		×	
		×	

平成20年度のコスト【イン・プット】

事業費(千円)		財源(千円)		職員人件費(千円)		800
計	10,246	計	10,246	内訳	正規職員(人工)	0.1
人件費	0	国庫支出金	10,246	内訳	非常勤職員(人工)	0.0
扶助費	0	県支出金	0	内訳	再任用職員(人工)	0.0
物件費	2,133	市債	0	年間経費(千円)		11,046
維持補修費	0	受益者負担金	0	受益者負担率(%)		0.0
補助費等	8,113	その他	0			
その他	0	一般財源	0			

定量評価

指標1【アウト・プット】		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
スクールガードリーダー巡視小学校÷小学校	目標	%	-	100	100	100	100
	実績	%		61	82		
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円	0	7,062	11,046	10,381	10,381

指標2		単位	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
	目標	%					
	実績	%					
年間経費(事業費・人件費の合計)		千円					

定性評価

事業目的の達成状況

○スクール・ガードリーダーによる市内小学校区の活動では、90小学校、18人のスクールガードリーダーによる延べ5,647時間、1小学校あたり約16日の巡回・指導を行った。この活動により、小学校への安全指導や校区の安全が確認された。

○学校安全ボランティア養成講習会では、こども安全課による講習会を3回、各学校における講習会を79回開催し、延べ1,453人に対して警備上の留意点や不審者への対応方法を指導した。

○防犯に対する実践的な取り組みでは、天竜中学校区(1中学校、3小学校)を地域ぐるみの学校安全体制整備推進モデル地域に指定し、学校・家庭・地域が一体となった安全体制の整備を行った。学校においては、防犯訓練を始め、防犯マニュアルの整備、家庭・地域では緊急避難住宅の整備、防犯パトロールの実施などの活動が推進された。

内部評価の結果

(1)必要性			(理由)								
C 継続	A 終了 B 廃止 C 継続		こどもの安全・安心を地域から生み出すために、時代にあった有効な手段である。								
(2)実施主体			(理由)								
C 市	A 民間(民営化) B 国、県、広域 C 市		国から市への委託事業である。(100/100)								
(3)選択と集中			(理由)								
B 現状	A 拡大(予算) B 現状(予算) C 縮小(予算)		スクールガード・リーダーは、防犯に関する専門的知識や技術が必要とするため、人材の確保が難しい。								
(4)改善			(理由)								
A 改善あり	A 改善あり <table style="display: inline-table; vertical-align: top; margin-left: 10px;"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 一部廃止</td> <td><input type="checkbox"/> 民間委託</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 一部民営化</td> <td><input type="checkbox"/> 受益者負担</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 非常勤化</td> <td><input type="checkbox"/> 協働</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 現状</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> その他改善</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/> 一部廃止	<input type="checkbox"/> 民間委託	<input type="checkbox"/> 一部民営化	<input type="checkbox"/> 受益者負担	<input type="checkbox"/> 非常勤化	<input type="checkbox"/> 協働	<input type="checkbox"/> 現状	<input checked="" type="checkbox"/> その他改善	B 改善なし	スクール・ガードリーダーへの依頼や巡回指導、モデル地域の実施など適正に取り組んだ。 「地域の子どもは地域で見守り、育てる」ことが再認識され、地域防犯活動の自主的な取組みに結びつくような働きかけをしていく。
<input type="checkbox"/> 一部廃止	<input type="checkbox"/> 民間委託										
<input type="checkbox"/> 一部民営化	<input type="checkbox"/> 受益者負担										
<input type="checkbox"/> 非常勤化	<input type="checkbox"/> 協働										
<input type="checkbox"/> 現状	<input checked="" type="checkbox"/> その他改善										
今後の事業展開											
今後の方向性			(理由)								
C 改善	A 拡大 B 現状 C 改善 D 廃止		拡大を望んでいるが、スクールガード・リーダーは防犯に関する専門的知識や技術が必要とするため、人材の確保が難しい。								
今後の方向性を実現するための具体的取り組み(何をいつまでにどうするか)											
こどもたちの安全を地域で見守る活動を推進していくため、学校安全ボランティアや「こどもかけ込み100番の家」の活動を活性化していく。 ・各地域における活動定着までにはある程度の時間が必要となるため、スクールガードリーダーによる巡視・指導活動を継続していきます。 ・21年度は18地域に20人のスクールガードリーダーを配置し、定量評価100%となる見込みであり、22年度も同様に計画をしています。 ・現在、学校安全ボランティアなど防犯パトロール組織のない小学校が15校あり、当面は、こうした学校において保護者や地域住民向けの学校安全ボランティア養成講習講座を開催するなど地域の組織作りに重点をおいた取組みを進めます。											
廃止できない理由(廃止した場合に想定される影響)											
子どもたちを取り巻く環境が悪化している中、子どもたちの安全安心を望む声は年々高まり、市として対応が求められている。											

政策・事業外部評価結果報告シート

事業名	地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業			
所管課名	こども安全課			
内部評価 (外部評価前)	方向性	理由		
	現状	拡大を望んでいるが、スクールガード・リーダーは防犯に関する専門的知識や技術を必要とするため、人材の確保が難しい。		
外部評価	【採点結果】 4点満点			
	①事業の目的や内容が理解できたか	②事業の達成状況や効果が理解できたか	③内部評価の結果とその理由は妥当か	総合評価(平均)
	3. 7	3. 5	3. 3	3. 5
	【主な意見】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定量評価(スクールガードリーダー巡視小学校の割合)の平成 20 年度実績 82%は、低いのではないかと。 ・ 良い事業だとは思いますが、スクールガードリーダーを委嘱してまで、継続する必要はないのでは。地域で協力して解決すべき。 ・ 学校から協力を働きかけてもらえば、地域も協力しやすい。 ・ 防犯パトロール(青パト)には、高齢ドライバーが多いので、保護者への協力を働きかけてほしい。 			
今後の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 21年度は18地域に20人のスクールガードリーダーを配置し、定量評価100%となる見込みであり、22年度も同様に計画をしています。 ・ 現在、学校安全ボランティアなど防犯パトロール組織のない小学校が15校あり、当面は、こうした学校において保護者や地域住民向けの学校安全ボランティア養成講習講座を開催するなど地域の組織作りに重点をおいた取組みを進めます。 ・ 各地域における活動定着までにはある程度の時間が必要となるため、スクールガードリーダーによる巡視・指導活動を継続していきます。 ・ 青パトは青色防犯パトロール講習を受講後、警察の証明書が授与される、パトロールは2人以上で実施するなどの制約があり、地域防犯を目的とする任意団体が実施しています。関係機関には情報提供をしていきます。 ・ この事業がきっかけとなり、「地域の子どもは地域で見守り、育てる」ことが再認識され、地域防犯活動の自主的な取組みに結びつくような働きかけもしていきます。 <p>(外部評価の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校における安全に対する取組みと継続実施についての必要性を理解していただけだと思います。 			